

Oshima
Letter

大島レター 2

March
2017



目 次

へ ごあいさつ ▼

大島の振興について

大西秀人（高松市長）

へ 最近の活動紹介 ▼

瀬戸内国際芸術祭2016が終わって

3

へ 連載コ一ナ一 ▼

瀬戸内放送局 今月の「大島アワー」

5

へ 大島の連絡帖 ▼

歳時記

6

編集後記

大島の振興について

大西秀人　Hiideto Onishi　（高松市長）

大島は、高松港から北東約8キロに位置し、豊かな自然や美しい砂浜を有する島です。

平成22年度に「瀬戸内国際芸術祭2010」の会場になつたことを契機に、これまで3回の芸術祭が開催さ

れ、来島者を始め、多くの方々にハンセン病の歴史や同療養所の現況を知つていただき、また、芸術関係者を始めとする島外の人々との交流も一層盛んになつてしまひりました。

このような中、昨年10月には、国が大島青松園の空き施設を改修した、交流拠点となる社会交流会館がプレオープンし、来島者と住民とのふれあいの輪が更に広がつていくものと存じております。

本市といたしましては、今後とも住民の方々の意向を尊重させていただきながら、大島振興方策に基づき、島外との交流や、これまでに大島に関わってきた方々とのネットワークを活用した情報発信を継続するなど、大島の振興に取り組んでまいりたいと存じます。

瀬戸内国際芸術祭2016の報告



「海の復権」をテーマに、2010年から始まつた瀬戸内国際芸術祭も3回目が終了しました。昨年は5,104人が来島し、第1回目4,812人、第2回目4,544人と来島者は1万5千人近くにもなり、日本だけでなくアジアを中心いろいろな国から訪問がありました。「大島がこんなことになるとは思っていなかつた」「こんなに続くイベントになるとは思つていなかつた」という入所者の方の声もある程、芸術祭の影響は想像以上に大きかつたようです。



こえび隊が初めて大島を訪れたのは2009年11月頃。その頃は入所者の方も100名を超えていましたが、今では60人を切つてしましました。去年、ガイドでお客さんを案内している時、ところどころでこういつたお話をしていくと、来



島した方から「この先、大島はどうなるんですか?」という質問をたくさんいただきました。これは過去2回の芸術祭とは違う傾向でした。大島の美しい自然とここで起こってきた過去の歴史とのギャップに驚く人たちも、私たちのガイドに耳を傾けてくださいました。みなさん少ない滞在時間の中で、懸命に生きてきた入所者たちの園内の暮らししぶりや文化に触れ理解し、これからの大島の未来に気づいてくださいました。



秋会期が終了する頃は、入所者と来園者との交流の拠点となることが期待される社会交流会館「よつてんまい」の一部がオープンしました。芸術祭が終わつた今、バリアフリーのカフェ・ショルにお茶をしに来てくれたり、ろっぽう焼きを買いや来てくれたり、常連のお客さんと会話を楽しむ方もいたりと、新しいカフェ・ショルもみなさんの中に少しづつ浸透し始めています。

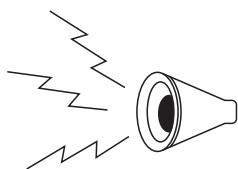
瀬戸内放送局 今月の「大島アワー」

毎月1回、こえび隊が園内限定で放送しているラジオ番組。番組内の「今月のお誕生日」コーナーは、その月に誕生日を迎える方のお名前を読み上げた後、「ハッピーバースデー」の歌が流れます。入所者の中には、ご自分の名前が放送で流れるのを楽しみに待つてくれている方もいます。

さて、今月は「クラブ活動のお話」。

大智慶巳さんから青松ゲートボール同好会について聞いてきました。

わしは、同好会ができた昭和53年から入ったんよ。今は、ゲートボールで交流することも少なくなってるけど、年1回は必ず交流試合をしとるんよ。たまに、親しいチームを呼んで試合をすることもある。昔は50人くらい同好会におった。大島内でチーム作って、1位～3位までは商品を出しあった。ようけおるときは、大島は強かつたんよ。全国大会へ何回もいっきょった。でも、今はもう弱いけん、呼んでくれんようになってしまふた。その頃はようゲートボールやりよつたけど、今はもう5人しかおらん。試合するんに5人はいるから、1人でも欠けたらできん状態になつとるね。



ずらりと並んだトロフィー

5月19日●「第13回ハンセン病市民学会総会・交流集会in香川・岡山」

全国のハンセン病療養所の入所者などでつくる「ハンセン病市民学会」。集会は、全国13カ所にある療養所所在地を中心巡回開催されている。

主催:ハンセン病市民学会 要申込(4月7日締切)・有料

問い合わせ:ハンセン病を考える市民の会 090-9775-8473(酒井さん)

8月●夏祭り

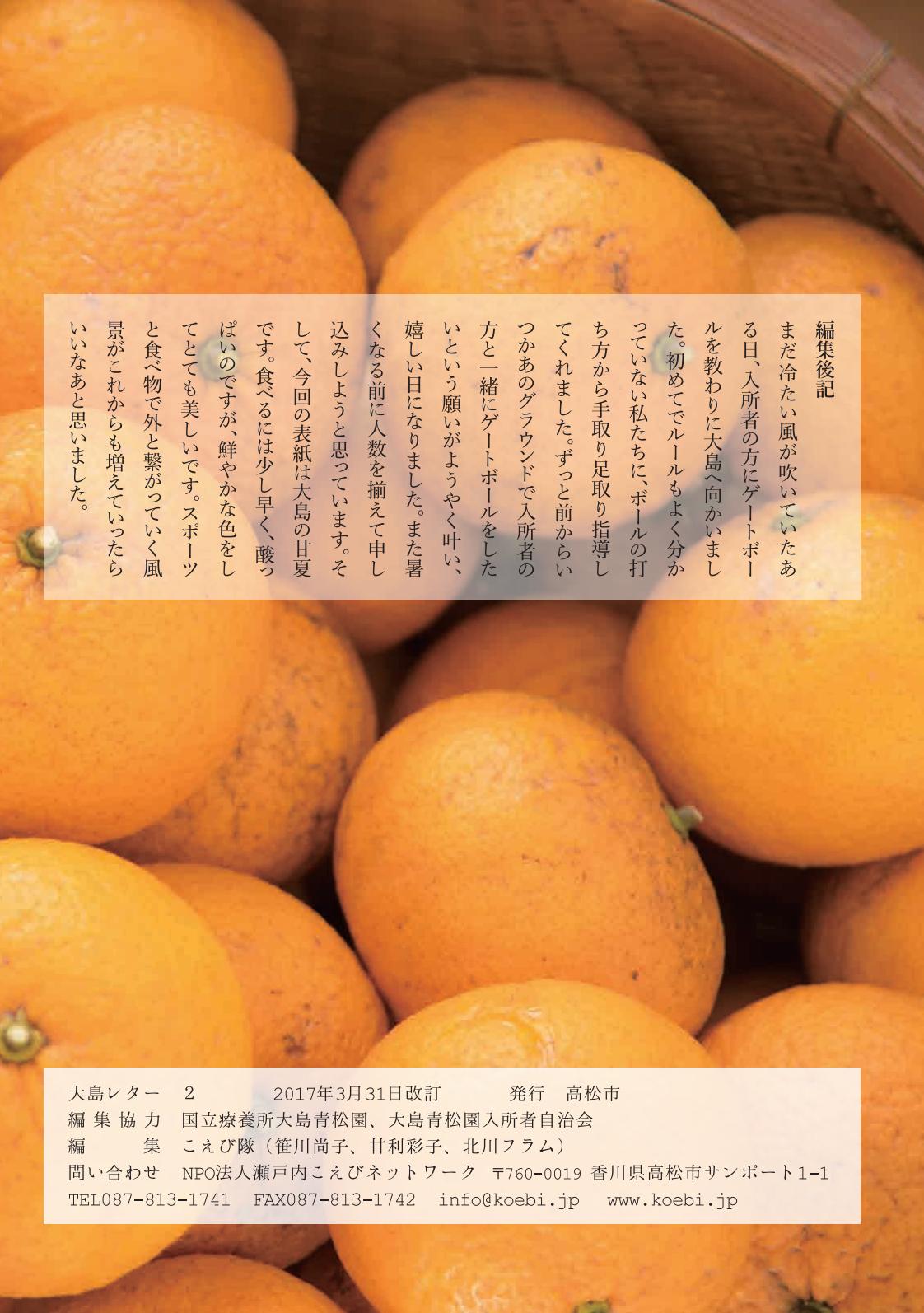
毎年大島青松園の行事として開催されている。港近くには出店が並び、よさこいや阿波踊りの連が参加している。入所者のふるさとの風情を懐かしむ姿が印象的であり、港からあがる花火も圧巻な夏祭り。主催:国立療養所大島青松園

8月●盆供養

納骨堂にて、亡くなつた方々の供養をお盆に行なつてている。入所者と職員が参加している。主催:国立療養所大島青松園

その他、園や各団体の行事が季節ごとに行なわれています。瀬戸内国際芸術祭の作品の公開は、第2土日に予定しています。イベントやワークショップなども今後開催予定です。





編集後記

まだ冷たい風が吹いていたある日、入所者の方にゲートボールを教わりに大島へ向かいました。初めてでルールもよく分かつてない私たちに、ボールの打ち方から手取り足取り指導してくれました。ずっと前からいつかあのグラウンドで入所者の方と一緒にゲートボールをしたいという願いがようやく叶い、嬉しい日になりました。また暑くなる前に人数を揃えて申し込みしようと思っています。そして、今回の表紙は大島の甘夏です。食べるには少し早く、酸っぱいのですが、鮮やかな色をしてとても美しいです。スポーツと食べ物で外と繋がっていく風景がこれからも増えていたらいいなあと思いました。